

第3回在宅ケア多職種連携活動発表会

日時 平成27年11月26日(木) 午後7時～

会場 ウェルパルクまもと 1階大会議室

会 次 第

19:00～ 開 会

19:05～

活動発表(1グループ 20分)

【座長】熊本在宅ドクターネット 松本 武敏 先生

	団体等	活動名
1	西区医科歯科連携の会	在宅での生活を支える多職種連携 ～残存機能の維持向上・食支援～
2	健康トレーニング in 月出 実行委員会	月出校区における介護予防活動 ～健康トレーニング in 月出～
3	ともにスピーチ (南区失語症友の会)	『ともにスピーチ』 南区の多機関連携による失語症友の会の発足
4	にしくまもと病院	クラウドサービスを活用した情報共有システムの 構築について
5	熊本市民病院	多職種で支える「看たい」「生活したい(いきたい)」 「帰りたい」

20:45～ 質疑・意見交換

21:00 閉 会

西区医科歯科連携の会

1. 活動名

在宅での生活を支える多職種連携 ～残存機能の維持向上・食支援～

2. 団体等について

名称	西区医科歯科連携の会
代表者	町田 由美子

3. 活動概要

活動歴	1年(平成27年2月～)
活動のきっかけ	在宅患者さんの連携を中心に互いの知識向上が必要と考えたことから
活動人数	9名
活動目標	在宅患者さんの連携を基に口腔ケア、リハビリ、栄養管理まで知識を深め、共通アセスメントシートの作成、共有を行う。外来での介護予防へつなげる。

4. 活動内容

3ヶ月に1回を目途に、連携患者さんの症例検討(医科、歯科) エビデンス資料の提示

5. 今後の展望

<ul style="list-style-type: none">・職種を多職種へ広げることにより、西区在宅支援の連携ネットワークを構築する。・共通アセスメントシートの作成
--

健康トレーニング in 月出 実行委員会

1. 活動名

月出校区における介護予防活動 ～健康トレーニング in 月出～

2. 団体等について

名称	健康トレーニング in 月出実行委員会
代表者	北住 紀美子
協力団体等	月出校区民生児童委員協議会、託麻台リハビリテーション病院、ケアセンター赤とんぼ、萬生会（サンセリテ月出、訪問看護ステーション、居宅まこと）、メディカルフィットネス ファイン、ヴィラ・ながみね、歩行リハビリセンター-hokoru、訪問看護ステーション ラシクアーレ、メディエイト鶴翔苑、ささえりあ保田窪

3. 活動概要

活動歴	0.5年（平成27年4月～）
活動のきっかけ	月出校区に歩いて通える介護予防事業がなかったため
活動人数	20名程度
活動目標	月出校区の高齢者の健康維持、増強。また、それらへの意識の向上を図り、住民自らが健康維持、増強への活動が出来る地域づくりを目指す。

4. 活動内容

H27.4月から毎月第1、3金曜日 10:30～11:30 サンセリテ月出内多目的ホールにて開催。
内容は、共通体操（DVDを用いたもの）、健康講話、各事業所より介護予防活動の実施。
初回参加のみ看護師による健康チェックの実施。

5. 今後の展望

受付や案内などは校区民生委員等にて実施中。会場設営はサンセリテ月出スタッフがっており、今後は各事業所の支援を減らしながら、地域主体で自主的に運営出来るよう支援していきたい。

ともにスピーチ（南区失語症友の会）

1．活動名

『ともにスピーチ』南区の多機関連携による失語症友の会の発足

2．団体等について

名称	ともにスピーチ（南区失語症友の会）
代表者	（事務局）ささえりあ平成
協力団体等	済生会熊本病院、桜十字病院、にしくまもと病院、平成とうや病院、御幸病院、デイケアおおみや

3．活動概要

活動歴	8ヶ月（平成27年1月～） H27.8時点
活動のきっかけ	地域ケア会議で地域課題として発足の賛同を得て
活動人数	（参加者）15～20名程度 （支援者）15名程度
活動目標	脳血管障害によりコミュニケーションを制限された高齢者の閉じこもり予防及び交流、生きがいづくりを支援する。

4．活動内容

- 1) 毎月1回、協力機関との実行委員会を開催し、活動内容や運営方法を検討
- 2) 隔月1回、定例会を開催し、参加者との交流、地域活動につながるきっかけづくりを支援
- 3) 研修旅行、講演会、他失語症友の会との交流会
- 4) 協力団体のスキルアップ研修

5．今後の展望

初年度は協力団体が主に活動内容・運営方法を決定するが、次年度以降は参加者が主体的に関わるような運営方法・活動内容へ移行していく。参加者が当会での活動を通じて、地域活動に参加できるよう協力団体や地域団体が継続して支援を行っていく。

にしくまもと病院

1. 活動名

クラウドサービスを活用した情報共有システムの構築について

2. 団体等について

名称	医療法人相生会 にしくまもと病院
代表者	林 茂（病院長）
協力団体等	下益城郡医師会在宅医療連携拠点事業 北部地区（南区富合町・城南町）関連機関

3. 活動概要

活動歴	1年未満（本格的には平成27年4月～）
活動のきっかけ	下益城郡医師会在宅医療連携拠点事業
活動人数	多数
活動目標	クラウドサービス（インターネットを活用した情報共有ツール）を医療・介護に関わる方々の情報共有ツールとして活用する事で、利用者情報やその他の情報の共有をより効率的に行い、多職種連携の推進を図る

4. 活動内容

下益城郡医師会在宅医療連携拠点事業において、クラウドサービスを活用した情報共有システムを平成26年度より導入開始。本事業の北部地区（南区富合町・城南町）の拠点病院として活動している当院が平成27年度より本格的に活用を開始。利用者の情報共有ツールとしては、在宅医療の現場で使用される「連絡帳」のWeb版で、タイムリーに、写真や動画等も活用し正確な情報の発信が可能となる。実際の利用者の情報共有を、症例によっては家族も含めた形で、活用を開始している所であり、今後、より推進していく予定である。

5. 今後の展望

今後、本システムが北部地区（南区富合町・城南町）での利用者の情報共有システムとして定着するためには、本システム自体を多くの方に知って頂き、システムの利用に賛同して下さる事業所や職員を増やす事が重要である。現在地区内で11事業所51名がIDを取得しているが、今後も継続して啓発し、賛同できる施設・スタッフを増やしていきたい。

また、各種団体等での情報共有システムとしての活用も検討しており、下益城郡医師会在宅医療連携拠点事業北部地区（南区富合町・城南町）運営委員の連絡ツールとしての活用や、同地区のID取得者間での情報共有ツールとしての活用を開始している。また、平成27年度より、熊本市南区において、通所型介護予防事業受託事業所の連絡会を立ち上げ、本連絡会の標準の情報共有ツールとしての使用も開始している。今後も他の団体での活用も検討していきたい。

熊本市民病院

1. 活動名

多職種で支える「看たい」「生活したい(いきたい)」「帰りたい」

2. 団体等について

名称	熊本市民病院
代表者	豊永 靖子 高木 薫

3. 活動概要

活動歴	5年(平成22年10月~)
活動のきっかけ	国の在宅移行支援の推進に伴い
活動人数	10名
活動目標	病気を持っていても安心して在宅での生活が送れる様に連携強化が必要になってきており、病院でも積極的に退院支援に取り組んできている。しかし、職員の知識不足もあるため、啓蒙・教育を行う。

4. 活動内容

H22	退院支援スクリーニングシート使用開始
H23	退院支援勉強会(院外講師)2回
H24	退院支援講演会(宇都宮宏子先生)、主任会・師長会WG設立
H25	退院支援研修会(宇都宮宏子先生)、実践報告会(外科)、他医療機関視察
H26	退院支援院内研修会6回シリーズ
H27	在宅医療多職種連携研修会(熊本市共催)、実践報告会(内科)、後方支援病院見学 実習、小児在宅WG活動

5. 今後の展望

前述のように、病院に勤務する医師・看護師は、地域でのケアの実際や社会資源の活用等に理解不足があるため、院内でできることを考え、患者さん・家族の意向に沿った支援ができるように院内教育を行っていきたい。